

『西国立志編』白話語彙考

Colloquial Chinese Vocabularies in Saikokurissihen

木村 秀次

Shuji KIMURA

キーワード：西国立志編 Self-Help 近世中国語 漢語大詞典 英華字典

構成

- 一 はじめに―本稿の目的
- 二 語採録の方針と扱った事項など
- 三 採録語・文例・出現する文献など
- 四 おわりに―覚え書き
- 五 今後の課題

資料・参考文献

一 はじめに―本稿の目的

明治初期の著書・訳書・新聞・雑誌等の諸文献には、中国の古代語・近世語、仏教用語、あるいは和製漢語など、異なる成立時代・出自・分野（ジャンル）の漢語が用いられている。しかも、それらは、後代の日本語に接続する語もあり、連続しない語もある。また前者の中には、意味・用法上変化やずれの生じたものもある。

中村正直『西国立志編』においては、それらの語が混然と使用されている。当時の漢語の諸般にわたる特質を把握することの中で、以上のような漢語の層別といった視点からの考察が求められる。

本稿は、その近づきの基礎作業の一環として、『西国立志編』を対象とし、中国明代以降に成立した可能性の高い漢語（厳密さを欠くが以下「近世中国語」ということがある）の中から、八十語を抜き出したものである。なおそれらはおおむね現代日本語に接続しない。

『西国立志編』は、明治三年秋、約十か月を費して訳業が完成し、翌明治四年（一八七二）七月刊行された。本稿では、中国明代以降に成立した可能性のある語を対象としたが、明王朝の建国は、一三六八年であるから、『西国立志編』の刊行に至るまではほぼ五百年間にわたることになる。明治四年は清朝の穆宗の治世に当たり、中華民国成立（一九一二）に約四十年先立つ。

本稿の目的は、直接には『西国立志編』において、
・近世中国語の取り入れ状況―具体的にどのような語がどの程度用いられているか

の一端を把握することにあるが、更にそれらの漢語をめぐって、次の諸点を視野に含め、その状況などを確認するものである。

- ・ 文例を通しての具体的使用—どのような文脈の中で用いられているか
- ・ 左ルビ及び原文『Self-Help』の原語に基づく意味
- ・ 『Self-Help』の原語との対応—本文の訳語の原語は何か
- ・ 原語に対する本文の訳語と『英華字典』の訳語とのかかわり
- ・ 漢語に付された振り仮名—右ルビ・左ルビの性格と役割

二 語採録の方針と扱った事項など

「語採録の方針」と「扱った事項と示し方」とに分けて記す。

〔語採録の方針〕

- 1 『西国立志編』（明治四年 国立国会図書館蔵本〈同人社蔵版〉）に見られる漢語を対象とする。
- 2 中国『漢語大詞典』を中心に、『大漢和辞典』『中日大辞典』『中国語大辞典』に記されている用例の出典名が、中国明代以降の文献である語を抽出する。（順に、『漢語大』『大漢和』『中日大』『中国語大』と略記することがある。）
- 3 上記の諸辞書に、具体的な出典名が示されていない語でも、明代以降の語であることが明らかな場合は採集する。
- 4 以上の漢語の中から、本稿では八十語を選び出した。

〔扱った事項と示し方〕

- 1 漢語の音読みによる五十音順に掲げる。ただし、音読みは便宜上のもので必ずしも当時の読みを示すものではない。中国語音に基づくことが通例の語も漢字音による。

- 2 各漢語に関し、順に次の事項について記す。

a 漢語の読み

b 漢語

- c 漢語に付された振り仮名と漢語の意味——振り仮名は右ルビ、左ルビの順とする。（文例の中でも記すため重複する。）漢語の意味は、必要に応じて記す。左ルビそのものがおおむね意味を示す役割をもつが、『Self-Help』の原語あるいは文脈からたどった意味である。

- d 所在箇所——編は漢数字、章は算用数字で示す。同一の章に複数回現れる場合は、章の下に出現回数を記す。所在箇所は、文例の後にも記すため重複することがある。

- e 文例——該当語が三回以上現れる場合、原則としてそれを含む二つの文を記す。該当の漢語の意味のとりやすいもの、振り仮名の異なるもの、原語の異なるものを優先する。該当の語に傍線を付す。漢字は現在通行の字体により、合字の一部は片仮名にひらいた。文に濁点を補い、振り仮名は関連部分以外で省くことがある。文例の最後に所在箇所（編・章）を記す。

- f 漢語に対応する『Self-Help』の原語（つまり、漢語はその原語の訳語にあたる）

- g ロブシャイド編『英華字典』の訳語——該当の漢語に対して、『英華字典』がどのような訳語を付しているか。（『英華』と略記する。なお、本稿では先行する『英華・華英辞典』の記述には触れない。）

- h 辞典の採録状況と文献名——『漢語大詞典』の採録状況と、採録の場合、必要に応じて「」内に意味、「」内に該当語の出現する文献名（三つ以上示す場合は、原則として時代的に最も古いものと最も新しいものを記す。必要に応じて、『大漢和辞典』『中日大辞典』等の記述を補う。（便宜上、日本の現在通行の字体による。）

- i 補記——他辞書の記述や疑問点などを簡潔に記す。

三 採録語・文例・出現する文献など

- イタイ 衣袋 右ルビ「ポケット」 九・11
 デモンロンドン 戎孫倫敦ニ来リシ時・ソノ衣袋中ニタゞ一個ノ奇尼^{ギニー}金銀アルノミ。(九・11)
 原語 pocket 「英華」袋 囊仔 荷包
 「漢語大」収めず 「中日大」 「中国語大」 「(服の)ポケット」。

- エイソウ 影相 左ルビ「シャシン」 一・17
 ・始テ影相ヲ金版ニ留ムル「ヲ發明セシ達礪爾ハ・戲台ニ用フル風景ヲ画ガケル者ナリシナリ。(一・17)
 原語 該当語見当らず
 「漢語大」収めず 「中国語大」 「写真を撮る。」
 補記「ロブシャイド編『英華字典』の Photograph の訳語に「影相」あり。

- カイサ 快差 左ルビ「ヒキヤク」／「飛脚、急使」の意。 十二・20
 ・コノ地ヨリ駅信ヲ発スル。週七日。只一回ニテ。一人ノ快差^{ヒキヤク}コレヲ携ヘ往ケルノミ。(十二・20)
 原語 runner 「英華」快馬 跑京差 快班

- 「漢語大」収めず 「中日大」 「旧時、旧使。飛脚。」
 補記「『漢語大詞典』の「差」cāi に、「派遣」の意として、『三国志』(眞志・陸抗伝)の一節を挙げる。

- カイトン 会単 左ルビ「カハセテガタ」／「為替手形、小切手」の意。
 十・12④

- ・二十余金ノ会単ヲ買ヒテ。コレヲ用ヒタルニ。コノ会単ハ用ニ中ズトテ還サレケリ。(十・12)
 カハセテガタ

- 原語 bill 「英華」単 a bill of exchange 会単 匯單 匯票 銀單 銀票 錢票
 「漢語大」収めず

- 補記「『単』の例は、『改革策単』(十・2)がある。左ルビ「カキツケ」。
 『漢語大詞典』の「単」は、「記載事。物的紙片或票証。」の意味で、宋胡太初『昼帘緒論』(聴訟)の用例を挙げる。「議単」を参照。

- カシュ 火酒 右ルビ「ブランデー」、左ルビ「ショウチウ」 四・21、
 九・24、十・16
 ・船貨中ニアリシ火酒ヲ飲マシメタレバ。コレニヨリ歩行シテ。ソノ寓居ニ帰ル「ヲ得タリ。(四・21)
 ショウチウ

- ・三軍ノ用フル麵包ビスケット^{麵包ノ一種}火酒ノ数ヲ逐一ニ記載シテ。營業ニ送ラシメシ「アリ。(九・24)
 バン

- 原語 brandy (四・21) spirits (九・24) 「英華」brandy 焼酎 啤蘭地酒
 三熬酒 三蒸酒 spirit of wine 精酒 spirits 酒之総称
 「漢語大」 「酒精的別名。」「二十年目睹之怪現象」(第二八回)、茅盾『多角關係』(十二)

- カッカク 攫客 左ルビ「スリ」 十三・4

- ・譬ヘバ剪徑賊及ビ攫客ノ姦巧ヲ用ヒテ他人ノ物ヲ攘奪スルガ如シ。(十三・4)
 オヒハギ スリ ワルタクミ

- 原語 pickpocket 「英華」剪荷包賊 割荷包の 剪絡的
 「漢語大」収めず 「大漢和」 「すり。」「談撰」
 補記「『日本国語大辞典』は、『公議所日誌』(十八・五、明治二年六月)の用例を挙げる。

カハン 夥伴 左ルビ「ナカマ」／「仲間、集団、グループ」の意。四・21、六・10、十二・1

・全身寒テ動ク「能ハズ。半バ死スルモノニ似タリ。ソノ夥伴コレヲ看出シテ、船貨中ニアリシ火酒ヲ飲マシメタレバ。……」(四・21)

・人各ミソノ少数ノ夥伴ヲ愛スル「ハ。邦国公同親愛ノ萌芽^{メダシ}ガ如シ^{ナカマ}ナリ。(十二・1)

原語 companion [英華] 伴侶 儔 儔 伴侶 匹 配 伙伴 夥計 伙計 僚友

〔漢語大〕明葉憲祖『鸞鏡記・挫權』、『兒女英雄伝』

補足―『日本国語大辞典』は、『日本風俗備考』(二)の用例を挙げる。

ギシ 戲子 右ルビ「ヤクシャ」一・19

・仙細爾ハ・多爾の皮匠ノ子ニテ。始メ戲子トナリシガ。後ニ。輕騎ノ兵籍ニ入り。一年ノ内ニ。甲比丹ノ職ニ上レリ。(一・19)

原語 actor [英華] actors, on the stage 優人 俳優 戲子 優伶 梨園子弟 扮戲的 做戲的 唱戲的

〔漢語大〕「旧時称職業戲曲演員。含輕視意。」『醒世恒言』(張廷秀逃生救父)、『紅樓夢』(第二二回)、魯迅『且介亭文集末編』(我的第一個師父)

補記―『英和对訳袖珍辞書』の comedian の訳語に「戲子」が見られる。

ギダイ 戲台 左ルビ「シバキ」／「演劇の舞台」の意。一・17、四・7

②、九・17

・達礙爾ハ・戲台ニ用フル風景ヲ画ガケル者ナリシナリ。(一・17)

・戲台ニテ女子ノ踏舞ヲ為スモノト雖ドモ。数年學習ノ後ナラデハ。場ニ登ルシバキ^{シバキ}「能ハズ。(四・7)

原語 opera [英華] 戲曲

〔漢語大〕「舞台。供演出用的台。」『水滸伝』(第五一回)、『老殘遊記』(第二回)、巴金『家』(三十)

補記―『日本国語大辞典』は、『日本風俗備考』(一五)、『輿地誌略』(三)の用例を挙げる。

ギタン 議單 右ルビ「(單に)ビル」／「議定書」の意。一・20

・近キ比。約瑟弗・伯洛沙敦ハ・薩爾福徳ノ民委官ナリシガ。十時議單ノ事ニ因リテ議論セルトキニ。……(一・20)

原語 議單 [英華] 單。その他の語を多く挙げるが、「議定書」の意味の訳語はなし。

〔漢語大〕「協議訂立的契機。」明馬從聘『摘陳漕政疏』、『世無匹』(第五回)、清沈日霜、『粵西瑣記』(手模)

キテイ 起程 「旅行に出かける、出立する」の意。八・14

・何レノ日マデニ旅裝備弁シテ亞弗利加ニ起程シ玉フヤト問ヒケレバ。直ニ答ヘテ明朝ト言ヒケリ。(八・14)

原語 set out [英華] to set out on a journey 起身 起程 举行

〔漢語大〕「出発上路。」『宣和遺事』(前集)、『紅樓夢』(第六六回)〔大漢和〕『剪灯余話』(両川都轄院志)、清黃六鴻『福惠全書』(筮仕部)

補記―『日本国語大辞典』は、読本『唐錦』(二)の用例を挙げる。

キボ 記簿 左ルビ「テチョウ」「デビカ」四・12、四・20、五・19、

十・11

・記簿鉛筆ヲ携ヘテ。林樹ノ間ニ往キ。禽獸ヲ補ラヘ。ソノ形状ヲ描写セシガ。……(四・12)

・大末二十歳ノ時ソノ記簿ニ録セシ語。早く已ニ後來有名ノ学士タルを徴スルニ足レリ。(五・19) デビカヘ

原語 notebook [英華] 記簿

〔漢語大〕 収めず [中日大] 「帳簿につける。」

キョウシ 供詞 左ルビ「クチガキ」／「訴訟事件での」申し立て書」の意。二・13

・(狀師) ソノ供詞ヲ覽畢リテ曰ク。我コノ機器ノ運用ヲ諳ゼズ。故ニソノ曲直ヲ明弁スル「能ズ。(二・13) クチガキ

原語 brief [英華] 要略 節略……略訴告状

〔漢語大〕 「指受審者口頭或書面交待的内容。」 『水滸伝』(第四六回)、『紅樓夢』(第九九回)、魯迅『且介亭雜文』 [中日大] 「供述。自白内容。」

キョウシ 教士 「神父あるいは牧師、宣教師」の意。十二・9

・貧家ノ子女。街衢ニ嬉遊シ。教育ヲ受ケズシテ。惡習ヲ長ジ。廢物トナレドモ。教士コレヲ憐マズ。官吏コレヲ察セズ。(十二・9)

原語 minister [英華] 牧師 a minister of religion 教道之臣

〔漢語大〕 「基督教各派宗教職業者の通称。」 清薛福成『上李伯相論西人伝教書』 [大漢和] 『清国行政法汎論』(外務部)

補記『漢語大詞典』は、「受過訓練的士兵」の意味で『管子』(小匡)の文例を挙げる。『西国立志編』において、「伝法教士」(四・10、十一・28、十二・16)もある。原語 missionary

ギョウテイ 業程 左ルビ「シゴト」 四・9、九・16

・一世ヲ裨益セント欲シテ。功勞ヲ為ス人ハ。就中久シキニ耐ヘテ業程ヲ勉メザルヲ得ズ。(四・9) トリフケ

・順便ナル方法ニ循フ「ハ。人ヲシテ許多ノ業程ヲ速カニ做シ完ウセシムルモノニシテ。亦タ要緊ナルモノナリ。(九・16) シタガ

原語 work [英華] 工 工夫 工作 工程 行為 行作 作為 手工

〔漢語大〕 収めず

ギンタイ 銀袋 右ルビ「ボアス」、左ルビ「カネブクロ」／「財布」の意。十三・17

・陛下万民ノ心ヲ懷玉ヘ。然ラバ陛下万民ノ心ヲ得。并セテ万民ノ銀袋ヲ得玉フベシ。(十三・17) ナツケ

原語 purse [英華] 荷包 袋 囊 床頭 腰頭 腰屏 纏袋

〔漢語大〕 収めず

ギンホ 銀鋪 左ルビ「リョウガヘヤ」 七・2②、八・25、九・26、九・29、十二・20

・抑モ富商大賈。或ハ銀鋪ニテ。毎日許多ノ金銭貨財ヲ。(中略) 托スルニ。(九・29) リョウガヘヤ

・ソノ翌松曉ニ。銀鋪ノ家ニ赴キ。自ラ担保トナリテ。七万金ヲ借り。其タコレヲ要須ナル商賈ニ発給ス。(十二・20) ウケニン

原語 banking-house (九・29) banker (十二・20) [英華] banking-house

はないが、Bank of the place where the collection of money is deposited 銀行 銀鋪 銀号 錢鋪 錢庄 銀店 banker 銀行公司 銀行事頭 銀行東家 銀鋪東家 銀鋪事頭 銀鋪東主 財東

〔漢語大〕 「打造銀器首飾之類の鋪子」として『金瓶梅詞話』(第九十回)の用例を載せるが、bank (銀行) の意味の記述及び用例は収めず。

補記『銀行商』(左ルビ「リョウガヘヤ」がある(九・4、十・22)。『英和対訳袖珍辞書』の Savings-bank の訳語に「銀鋪」が見られる。

ケンエン 圏円 左ルビ「(圏に) ワク」／「輪、サークル」の意。 十二・1

・仁恕ノ周囲次第二ニ広ク・慈愛ノ圏円・愈々大イニシテ・全地球ヲ懷抱スルニ至ルベシ。(十二・1)

原語 circle [英華] 圓線 円 円圈 圓界 徑 徑線

〔漢語大〕収めず 〔大漢和〕「まる。わ。」『靈台儀象志』(二)

コウサツ 候察 左ルビ「ミマヒ」 八・25

・毎朝次第二貧院ヲ候察シ・午後巴力門ノ議士ヲ訪問シ。……(八・25)

原語 go about [英華] 下手 興工……周囲行 周遊

〔漢語大〕収めず

補記「候察」は、意識である。

コウシ 公司 右ルビ「コムパニー」「コンパニー」／「会社、商会」の意。

四・15、八・26、九・4、十三・26

・東印度公司ニ属スル一ノ武童波斯ノ格曼沙ニ寓シケルガ。……(四・15)

・或ハ人ヲ拐帶シテ・東印度公司ノ厠役トナシ・或ハ迫リテ人ヲ船ニ乗セテ・

亜墨利加ニ送り。……(八・26)

原語 company [英華] 公司 大呢 公会 商会

〔漢語大〕「企業的組織形式。」清魏源『籌海篇』(四) 〔大漢和〕

『治台必告録』(嘆咭喇地圖説)

コンドウ 混鬧 左ルビ「コンザツ」／「いらいらする。あくせくする」

意。 九・14

・カクノ如ク・一生ノ間・煩擾 混鬧スルノミニシテ・終ニ一事ヲモ成就スル能ハザル「ナリ。(九・14)

原語 annoyance [英華] 勞難 勞騷 磨難 annoy の訳語に「混鬧」がある。

〔漢語大〕「胡鬧、無理取鬧。」『紅樓夢』(第八一回)、老舍『老張の哲学』

サイケン 債欠 右ルビ「サイケン」、左ルビ「カケ」「カケヲオフ」

「カリヲコシラヘル」 十・10、十・11②、十・12、十・14、十一・28

・又債欠ノ事ヲ言テ曰ク・債欠ハ自主ノ人ヲ化シテ奴隷トスルモノナリ。(十・11)

原語 debt [英華] 債 欠債 負債 負欠

・予コノ債欠ヲ重シト思フ。磨石ノ頸ヲ繞ルガ如キヲ覺ユ。(十一・28)

原語 debt [英華] 債 欠債 負債 負欠

〔漢語大〕収めず 〔欠債〕も収めず

サイホウ 賽跑 左ルビ「カケヲキソフ」／「競走、駆け比べ」の意。 十・42

一・42

・賽跑ノ事ハ・遅緩ニシテ穩固ナル人後ツヒニ勝ヲ獲ルナリ。(十一・42)

原語 race [英華] 跑 跑走 門跑 賽跑

〔漢語大〕「比賽跑步速度。」丁玲『奔』、蕭乾『幸福在萌芽』

シイン 市尹 右ルビ「ロードメーヨア」、左ルビ「マチブギョウ」／「市長」の意。 八・26⑤

・遂ニ市尹ノ捕役ニ人ヲ用ヒ・コレヲ捕ヘテ獄ニ投ジケリ。(八・26)

原語 Lord Mayor [英華] Mayor 府尹 城総憲 城之首官

〔漢語大〕収めず

補記「『日本国語大辞典』は、『日本外史』(足利氏後記)の文例を挙げる。

シカンニン 使喚人 右ルビ「エルランドボーイ」／「使用人、使い走り」

の意。五・23

・昔シ満遮士打ニ在リテ使喚人トナレル時。ソノ使ヒトナリ。道路ヲ往来スル
間ニ拉丁語法蘭西語ヲ学ビシトナリ。(五・23)

原語 errand-boy [英華] 使娣 使喚人

〔漢語大〕「使喚人」は収めず。「使喚」に「叫人替自己做事。」清 李漁

『意中縁』(毒証)、呉吟『朱元璋伝』(第一章)

シチョウ 司長 左ルビ「ザガシラ」／「座長」の意。九・3

・舌克斯畢ハ・戯場ノ司長ニシテ・頗ル自ラソノ俗務ヲ料理スルニ誇リシガ、

ソノ歌曲ヲ作ルハ・絶テ自負セザリシトナリ。(九・3)

原語 manager [英華] 弁理者 弁者 料理者 理事之人 首事 司長

〔漢語大〕収めず [大漢和]「清吏司の長、局長。」『清国行政法汎論』

〔六部官制概要〕[中日大]「中国語大」[局長。]

シドウ 厮僮 右ルビ「ボーイ」／「ボーイ、下働きの若者」の意。八・

25

・コノ会社始マリテヨリ・六年ノ中ニ五千四百五十一人ノ厮僮^{ボーイ}・四千七百八十

七人ノ義兵ヲ会社ニテ教練シ・海軍ニ入ラシムルヲ得タリ。(八・25)

原語 boy [英華] a waiting boy 侍仔 事仔 娣仔 豎子 討子 小厮

小介 使喚人… a slave boy 僮 家生娣 a house-boy 家僮

〔漢語大〕収めず

補記『西国立志編』において、「厠僮」とするが、「厮僮」であろう。

シャジダイ 写字檯 左ルビ「檯に」ツクエ」／「(書き物用の)机」の

意。四・13、十一・36

・牛董ノ小犬ダイアモンド^{ニットン}写字檯^{ツクエ}ノ上ニアル蠟燭ヲ覆シ。(中略)稿紙ヲシテ、

一朝灰燼ニ化セシメタリ。(四・13)

・吾ガ写字檯トスルモノハ・一ノ小木板ノ膝上ニ置ルモノナリ。(十一・36)

原語 desk (四・13) writing-table (十一・36) [英華] desk 文几 文案

文席 斜面檯 写字檯 写字棹 writing-table 写字檯

〔漢語大〕収めず。「写字房」を参照。

シャジボウ 写字房 右ルビ「カウンティングハウス」、左ルビ「チョウメ

ンタイレテオクトコロ」一・9、一・22、四・10

・織機ノ上ニモ犁鋤ノ下ニモ・写字房ノ中ニモ・工場ノ中ニモ・凡ソ大衆熱鬧

事務紛繁ナル処。…(一・9)

・ソノ主人病ニ臥シケレバ・若克孫ニ命ジテ・ソノ写字房ニ在テ・事ヲ司ラシ

メタリ。(一・22)

原語 counting house [英華] 賬房 写字房

〔漢語大〕「写字房」は収めないが、「写字」(意味は「書写文字、題字」)

に、南朝梁の陶弘景の文、唐の高駢の詩などの用例を挙げる。

シュウキン 修金 左ルビ「ツケット」／「教師などに対する謝礼金」

の意。十二・9②、十三・13

・修金ナキ子女ヲ教育シ、既ニ五百人余ヲ救ヒ出ダセリ。(十二・9)

・ソノ弟子ノ・元来拙ナキ師ヨリ学ビシモノニハ・常ニ倍スル修金ヲ出サシメ

シトナリ(十三・13)

原語 意識のため、該当語見当たらず(十二・9) fee (十三・13) [英華]

a teacher's fee 学金 修金 束修 学俸

〔漢語大〕「送給教師的酬金。」楚元王『諭立憲党』、鲁迅『彷徨』(高老父子)

シュウジョウ 収場 左ルビ「シマイ」／「話などの結末、終わ

り」の意。一・6、一・31

・都柏林^{ダブリン}愛蘭ニオイテ、百工芸能展覽会ヲ開キタル「アリケルガ、ソノ収場^{シマイ}ノ時、言タルコトヲ今コ、ニ引クベシ。(一・6)

・……一句ゴトニ大衆ニ笑レタリ、然ルニ収場^{ヲハリ}ノ一語、後日ノ識ヲ為シタリ。(一・31)

原語 closing (一・6) conclude with (一・31) [英華] a closing word
収場 啣話 結尾啣話 conclude 裁奪 酌奪 得主見 定着 審定 定畢
完結 結局 了了 結局 卒

〔漢語大〕「了結、結末。」『二刻拍案驚奇』(卷十一)、老舍『二馬』(第四段十一) 「結局、下場。」『初刻拍案驚奇』(卷三十一)、巴金『秋』(尾声)

シュシ 首司 右ルビ「ダイレクラー」ノ「取締役、支配人」の意。十

二・20
・ソノ身^{ニナ}ノ荷^{スカーラント}ヘル職任ハ、蘇葛蘭銀行ノ首司^{ダイレクラー}・不列顛羊毛会社ノ長。(中略)
ニテアリシナリ。(十二・20)

原語 director [英華] 司 主事 主司 首司 司理者 值事 掌理者 首事 監督 督理者 委員

〔漢語大〕収めず

シュトウ 手套 右ルビ「テブクロ」 二・13

・コレニ由テレイスニ似タルミッテン^{テブクロ}一種^{手套ノ一種}ヲ造リ出シケレバ、益々自ラ奮ヒ工夫ヲ下シケリ。(二・13)

原語 mitts [英華] 収めず。「補記」参照。

〔漢語大〕曹禺『日出』(第二幕)

補記ー原語はmittsであるが、本文のルビは「ミッテン」。『英華字典』mitten 手掌笠

ショウイン 承允 左ルビ「ウケアフ」ノ「同意する、承諾する」意。

一・18

・薬材ヲ秤量セン「ヲ飲メケレバ、卯格林コレヲ承允^{ボウケリン}シケリ。(一・18)
原語 assent [英華] 允 准 允准 允允 允諾 允肯……応 応承
〔漢語大〕艾蕪『人生哲学的一課』

補記ー『日本国語大辞典』は、『公議所日誌』(一五上・明治二年五月)の文例を挙げる。

ジョウシ 状師 左ルビ「クジシ」ノ「代言人、弁護士」の意。一・16、

二・13、四・19、六・12、七・6③、八・26⑧、九・7、十一・6③、十一・34

・外科医ノ始メテ病人ヲ托セラル、^{クジシ}「状師ノ始メテ訟事ヲ托セラル、」立
法者ノ始テ公会ニ於テ論弁スル、(中略)一生ノ大事ナリ。(六・12)

・或人嘗テ有名ノ法司ニ向ヒ、^{クジシ}「状師トナリテ功効ヲ顕ハスニハ、何ナル事ヲカ
必要トナスベキト問ヒケレバ……(九・7)

原語 lawyer [英華] 状師 法師

〔漢語大〕収めず [中日大]「旧時の弁護士。旧時の訴訟代書人。」

補記ー「状師館」の語もある(一・16、四・15②、四・17、四・23)。その原語
は the office of a solicitor [英華字典] solicitor 暗状師。

ショウシュウ 将就 左ルビ「チカツキ」ノ「接近する」意。一・28

・人ニ接見スルニモ各々ソノ人ノ器量ニ随ヒテ、コレニ体貼^{デフ}将就^{ソヒ}シテ、余力ヲ
惜マズ。(一・28)

原語 adapt himself to [英華] adapt 作合 弄他合 做到合

〔漢語大〕「接近。」明 郎瑛『七修類稿』(天地一・歲月陽明)

補記ー「漢語大詞典」は、「勉強」(無理に、無理をする)の意味で『詩経』
(周頌・訪客)の詩を、「遷就」(譲る、妥協する)の意味で宋 呂祖兼、元 関

漢卿の作品などの文例を挙げる。

ショウリウウ 消流 左ルビ「サバケル」／「売りさばく」の意。 十二・

20

・戦闘ニ由リテ、貨物消流セズ、人民産業ヲ失フモノ甚ダ多ク、(中略)富商大賈、殆ンド傾覆セントスル勢トナル。(十二・20)

原語 該当語見当らず

〔漢語大〕「銷售流通。」清新広東武生『黄蕭養回頭』、『二十年目睹之怪現狀』

ショハン 書班 左ルビ「カキヤク」／「書記」の意。 一・12

・舌氏(筆者注…シェークスピアのこと)ハ必ズ牧師ノ書班タリシ「アルベシト考論スルモノアリ」。(一・12)

原語 clerk [英華] a clerk in a government 書班 書吏 書弁 典吏

〔漢語大〕収めず「中日大」「書吏。旧時の書記。小役。」

補記―『西国立志編』に「書記」「書記官」(左ルビ「カキヤク」)もある(九・3、九・22)。「書弁」を参照。

ショベン 書弁 左ルビ「カキヤク」／「書記」の意。 一・12、一・16、

一・18、四・15②、四・17②、八・26、九・29

・舌氏(筆者注…シェークスピアのこと)始メ郷塾ニ在テ助教タリ、後ニ一人家ノ書弁トナレリ。(一・12)

・礼亜徳ハ、元倫敦狀師館ノ書弁ナリ。(四・15)

原語 clerk [英華] a clerk in a government 書班 書吏 書弁 典吏

〔漢語大〕「管弁文書の属吏。亦泛指掌管文書翰墨的人。」明 沈德符『野獲編』(内閣・三)、『西遊記』(第九六回)、梁啓超『变法通議』(学校総論)

〔大漢和〕清 梁章鉅『稱謂録』(書吏、書弁)、『清国行政法汎論』(文官使途種類) 〔中国語大〕「旧時、役所の書記。」「官場現形記」(二十三)、『紅樓夢』(八十八)

シンキン 紳衿 右ルビ「ジエントリー」、左ルビ「オホヒヤクショウ」／

「紳士」の意。 九・18④、十三・23

・某郷ニ、一ノ紳衿アリテ、一年五百金租入ノアル田産ヲ有チケルガ、……

(九18)

・昔シ法国ノ大将、ソノ率ル紳衿ノ隊ニ謂テ、曰ク、ジエントルメンノ品行ハ、

世間ノ爵位ヲ仮ズ、(中略)自ラ他人ニ尊敬セラル、ナリ。(十三・23)

原語 country gentleman (九・18) gentry (十三・23) [英華] country

gentry 郷紳衿 gentleman 先生 老師 相公 老爺 紳士 郷宦 縉紳

先生 gentry 紳衿 紳士 縉紳 衿耆

〔漢語大〕清 蒲松齡『聊齋志異』(盗戸)、『儒林外史』(第四回)、吳晗『吾人并非為制造一批百万富翁百戰』

シンシ 親嘴 右ルビ「キス」、左ルビ「クチヲホウニツケルコト」／「キ

ス、接吻」の意。 十二・3

・物的ハ、吾ガ母ノ一親嘴、我ヲシテ、画工トナラシメタリト云ヘリ。(十二・3)

原語 kiss [英華] 親嘴 啜 歔

〔漢語大〕『金瓶梅詞話』(第十三回)、『儒林外史』(第十四回)、方之『歲交春』〔中国語大〕『金瓶梅詞話』(第六回)

シンシ 審司 左ルビ「ギンミヲスルカシラ」「ギンミヲスルヒト」／

「裁判官」の意。 八・26、十一・34②

・コノ案件ハ、大関係アル事ナレバ、諸審司ノ意見ヲ聞キ、参考シテ、然ル後コレヲ決スベシト、……(八・26)

・又自ラ訟案ヲ作り、コレヲ弁論シ、審司ニ告グルガ如ク十分ニ意ヲ加ヘタリ、
キニミヲスルカシラ

(十一・34)

原語 judge [英華] 審司 判司

〔漢語大〕収めず

ゼイカン 税館 左ルビ「ウンジョウシヨ」／「税関」の意。 九・3

・始メ歩兵ニシテ、後ニ税館ノ官長、及び王家ニ属スル山林田園ノ監督トナリ、

ミナ功効ヲ顕ハセリ、
ウンジョウシヨ

原語 custom [英華] 税 税餉 餉銀 custom-house に税館

〔漢語大〕収めず

ソウコウ 搶劫 左ルビ「オシドリ」／「強奪する」意。 九・26

・然ルニ軍衆戦捷ニ矜リ、
ホコ 狂躁不法ノ事ヲ為シケレバ、
ウエリントシ 空林登ソノ搶劫スルモノヲ、
オシドリ 縊刑ニ行フ、(九・26)

原語 marauders [英華] 劫兵 賊 盜賊

〔漢語大〕「以暴力掠奪。」『古今小説』(楊八老越国奇逢)、巴金『家』

(一一)

ソウサイ 争賽 左ルビ「セリアフ」／「(賽に)セリアフ」／「競争する」意。 一・25、六・前文

・蓋シ安逸驕侈ニ生長スル人ハ、艱難ノ事ト争賽スル「能ハズ、(一・25)

・蓋シ善徳ハ、芸事ノ争賽スル中ニアリテ、
セリアフ 利欲ニ汲々タル中ニハアラザルナリ、
セリアフ

(六・前文)

原語 struggle [英華] 争 鬥 苦争 苦勞 力争

〔漢語大〕収めず

補記「『哲学字彙』(明治十四年)に、「competition 争賽(財)」とある。

ソウシ 走私 左ルビ「ナイシヨ」／「密貿易(をする)」。やみ取り引き(をする)の意。 四・21②

・年長ズルニ及ンデ、盜窃及ビ走私売買等ノ事ヲ好ンデ為セリ、(四・21)

原語 smuggler [英華] smuggle 走私 偷漏 漏税 夾帶 逃抽 闖関

smuggler 私客 走私者

〔漢語大〕清王韜『秘設洋藥兌司識』、茅盾『旅途見聞』

ソウセイ 湊成 左ルビ「アツマリナル」 五・12

・牛董光リノ湊成スル「及ビ色ノ原因ヲ發明シタルモ、別ニ奇器ニ由ルニ非ズ、(五・12)

ズ、(五・12)

原語 composition [英華] 合理者 合成者 湊合者 摺埋者

〔漢語大〕収めず 〔大漢和〕「一所に集める。」清黄六鴻『福惠全書』(刑名部) 〔中日大〕「寄せ集める。寄せ集めて作りあげる。」

補記「合湊」(一・7など)、「湊合」(五・22など)もある。

ダキユウギ 打球戲 左ルビ「タマヲウツアソビ」／「テニス」のこと。

九・15

・福格斯ハ、肥胖ナル人ナリシガ、
フラックス 打球戲ヲ作ス時、ソノ球ヲ拾フ「輕快驚クベシ、(九・15)

クベシ、(九・15)

原語 tennis [英華] 打波戲名

〔漢語大〕沈從文『從文自伝』(辰州)

タンカン 胆敢 「大胆である」意。 七・4

・王^{フィッブス} 費布士ノ剛決胆肝ニシテ能ク大事ヲ成セルヲ以テ奈的ノ爵ヲ以テコレヲ褒賞ス。(七・4)

原語 energy and honesty [英華] energy (resolutionの意味で) 剛毅、剛 honesty 老実 忠義 義氣 醇厚者

〔漢語大〕「恃其有胆量而竟敢于。」清林則徐『批澳門同知拿獲吧啣准其保釈稟』、曹禹『王昭君』(第五幕)

タンソクジョ 站足所 右ルビ「站到テフ」、左ルビ「タテバ」 十一・

28 ②

・抑モ人生ノ路ニ、一ノ站^{デフ}足所アリ、多少ノ勞苦ヲ經、多少ノ艱難ト戦ハザレバ、コノ処ニ到ルヲ得ベカラズ。(十一・28)

原語 point [英華] 聚埋之處 重処

〔漢語大〕「站足」「站足所」ともに収めず。「站」に「在行進中停下来、停留。」の意味で『紅樓夢』(第二九回)の用例を載せる。

補記―「站」は右ルビ「テフ」とあるが、吳音テン、漢音タン。

チバン 地板 右ルビ「フロア」／「床(ゆか)」の意。 四・13、六・

15 ③

・……第一冊ノ写本ヲ友人ニ借シタリシガ、返ヘスニ及ンデ、客室^{パライ}ノ地板ニ置キシヲ、ソノマ、忘レタリ。(四・13)

原語 floor [英華] 樓板 地板 地台板

〔漢語大〕『儒林外史』(第二六回)、周立波『暴風驟雨』

チフ 知府 左ルビ「ダイクハン」／「知事、州長官」の意。二・10、二・

14、七・3、九・3

・阿克来声名日ニ顯ハレタレバ、命ゼラレテ大伯舍ノ知府トナル。(二・10)

・若瓜德ノ名、次第二世ニ聞エケレバ、知府コレヲ招キ、ソノ機器ノ談話ヲ聴キケルガ、遂ニコレヲ恩伯臘ニ薦聞ス。(二・14)

原語 High Sheriff (二・10) prefect (二・14) [英華] sheriff 成法官 prefect 知府 大守 府憲

〔漢語大〕「水滸伝」(第四六回)、清龔自珍『江南安慶府知府何公墓表銘』補記―『大漢和辞典』に、「官名。府の長官。宋代、府に知事を置き、知府の名、此に始まる。明、始めて毎府、知府一人と定め、清、之に因る。」

チヨウキ 賬櫃 右ルビ「チヨウキ」、左ルビ「カネヲカンジ(ヂ)ヨウ

スルクエ(ヘ)」一・9、六・12、十三・8

・我家ノ中ニモ、街衢ノ間ニモ、賬櫃^{チヨウキ}ノ後ニモ、(中略)学問ノ在ルトコロニアラズト云「ナシ。(一・9)

・故ニ常ノ習ヒトシテ、枕ニ倚リ、店面賬櫃ノ後ロニ在リテ、図ヲ画ガキ書ヲ讀ミケリ。(一六・12)

原語 counter [英華] 賬櫃 櫃匣 櫃枱 櫃台 棹櫃

〔漢語大〕収めず「中日大」「帳場のカウンター。」

チヨウモク 賬目 左ルビ「カンヂョウ」／「カンヂョウガキツケ」十・

11、十一・25

・予定規ヲ立テ、自ラ賬目ヲ償フヲ為セリ。(十・11)

・然レドモ、ソノ後ハ、必ズ綜算スル賬目ヲ送レリト云ヒケリ。(十一・25)

原語 bill (十・11) account (十一・25) [英華] a bill of goods 賬目單 討賬單 account 賬目 帳目 数目

〔漢語大〕『醒世恒言』(張孝基陳留讓舅)、『紅樓夢』(第五三回)、王西彦『古城的憂鬱』(蠱惑)

トウシユ 東主 左ルビ「カブヌシ」「カブヌシトウリョウ」「シヨクニン
ヲツカフヒト」十三・21②、十三・38

・厳正信実ナリシ故ニ、^{カブヌシ}東主ニ信ゼラレ、次第ニソノ身登進シ、兄弟ミナ自ラ

東主トナルヲ得、……(十三・21)

・東主即ハチ人ヲ用フル人トナリテ、ソノ使役スル人ヲ待スル所以ヲ觀テ知ラ
ルベシ。(十三・38)

原語 employer [英華] 東家 東主 事頭

〔漢語大〕「東家、店主、房東。」『甘載繁華夢』(第一回)、許地山『枯楊生
花』

トウニン 頭人 左ルビ「カシラ」「ホットウニン」一・27、六・15③、

七・4、九・26、十三・37

・一ノ工人、^{ロス}洛斯ノ爵位アル人ナル「ヲ知ズシテ、強テ^{シヒ}洛斯ニ請テ、ソノ頭人
トナセシ」アリキ。(一・27)

・マタ工場ノ頭人ヨリ、ソノ全家團樂ノ図ヲ托セラル。(六・15)

・叛乱ノ頭人ヲ^{カシラ}縛シ、ソノ余ノモノヲシテ、退キテソノ職事ヲ執ラシメタリ。
(七・4)

・コノ小舟、既ニ大船ヲ離レシ時、頭人心ナク喚ハリテ、水ニ^{オヨグ}溺ヲ能スルモ
ノハ、跳リ入りテ、カノ小船ニ取り付ケヤト云ヒシカバ、……(十三・37)

原語 foremanship (一・27) foreman (六・15) ringleader (七・4)

commander (十三・37) [英華] feremanship 収めず foreman 頭人 大
伙 伙長 頭目 ringleader 魁首 倡頭 首領 頭人 率領 commander

頭人

〔漢語大〕「頭目。為首的人。」清林則徐『查勘礦廠情形試行開采折』、陳殘
雲『山谷風烟』(第六章)

補記―『日本国語大辞典』は、「鎌倉・室町幕府の引付の部局長」の意で

「吾妻鏡」「太平記」、「大名の家中の常備軍である各隊の長」の意で「仮名草
子」などの用例を載せる。上記以外の意味も記す。和製漢語の可能性もある
うか。

トカン 賭館 「博打、(ばくち)場」の意。十一・26

・不幸ニシテ、輕薄ノ行ヲ為シ、^{シヤンバ}屢賭館ニ遊ベリ。(十一・26)

原語 gaming-table [英華] 収めず。gaming house に「賭館」あり。

〔漢語大〕「聚賭的館舍。」『二十年目睹之怪現狀』、蘇曼殊『絳沙記』

ニウコウ 入口 「輸入する。入港する」意。一・23

・抑モ古ヨリ英國ニ於テ穀物入口ノ税ヲ^{コインロース}收ムル「立テ法制トナリシガ、
……(一・23)

原語 原文でたどり得ない。

〔漢語大〕「外国或外地区的貨物運進來。」清丘逢用『汕頭海関歌』、毛沢東
『必須注意經濟工作』

補記―『漢語大詞典』において、「進入嘴中。指飲食。」の意味では、「左伝」
(定公四年)の文例を載せる。なお、中国では現在「入り口」の意味にも用
いる。

ネツテン 熱天 「炎天。はげしい暑さの天気」の意。九・8

・嘗テ七月ノ熱天ニ、屋脊ニ騎シ、家屋ヲ崩ス工務ヲナセル折シモ、一友人其
処ニ通過シテ、コレヲ見ケレバ……(九・8)

原語 hot day [英華] 熱天 暑天 天熱 天時暑

〔漢語大〕「炎熱的天气。」『紅樓夢』(第三十回)、「兒女英雄伝」(第三七回)

ネンシン 燃心 「焦点」の意。五・34②

・^{ヘルシエル}黒爾舌 久シク辛苦シテ燃心五尺ノ遠鏡ヲ造リテ成就シケレバ・コレヲ以テ
土星ノ環ト・^{サテルライツ}ソノ衛星ヲ察測スル「ヲ得タリ」(五・34)

原語 focus [英華] 燃心 燃枢 光射聚之処

〔漢語大〕収めず

ハイヒョウ 牌票 左ルビ「カキツケ」「トラヘルカキツケ」／「文字を記した札。文書」の意。 八・26④

・ソレヨリ直チニ市尹ノ処ニ往キ・^{ロッドメーヨー}牌票ナクシテストロングヲ拘ヘ・獄ニ投ジ
タリシ人ヲ召ビ質サン「ヲ請フ」(八・26)

・コ、ニ於テ・ハビースコルパス「人身ヲ保存スルノ^{トラヘルカキツケ}牌票」ヲ得テ・急ニコレ
ヲスピットヘードニ送リシカバ、……(八・26)

原語 summons a write [英華] summons 召者 票 write 所写者

聖經 命 勅命 命令 票…伝票

〔漢語大〕「…書面命令、差役執行時持為凭証。」『儒林外史』(第四回)、『紅樓夢』(第九三回)、魯迅『朝花夕拾』(無常)「大漢和」「免状。委任状。命令書。」清 黃六鴻『福惠全書』(刑名部)

バクガ 麦芽 左ルビ「モヤシ」／「モルト」の意。 九・28②

・近ゴロ有名ノ釀酒家アリシガ・ソノ家ヲ興シ・産業ヲ大イニセシ「ハ・多ク
麦芽ヲ用ヒテ惜マザリシニ由レリ」(九・28)

原語 malt [英華] 大麦芽

〔漢語大〕「発芽の大麦。」明 李時珍『本草綱目』(穀雨)「大漢和」「麦の芽。」『元史』(胡長孺伝)

ハクハク 白白 左ルビ「ゼニヲトラズニ」 十一・25

・造化ノ・人ニ生命ヲ与フルヤ・始メハ金錢ヲ要セズシテ・^{ゼニヲトラズニワタス}白白分給セルモノ

ニ似タリ。(十一・25)

原語 batis [英華] 白白

〔漢語大〕「無代価地。無償地。」「警世通言」(三現身包龍圖斷冤)、魯迅『彷徨』(長明灯)「大漢和」「紅樓夢」(第四回)

補記「『漢語大詞典』において、「顕示其明亮」の意味では、漢 董仲舒『春秋繁露』(楚莊王)の用例を挙げる。

ハッキツ 白喫 左ルビ「ゼニヲイダサズクラフ」／「ただ食いする。無錢飲食する」意。 十・14

・^{シヤンペイン}三麥酒及啤酒ヲ白喫シ・及ビ錢ヲ償ズシテ馬ニ騎ルガ如キハ・^{ゼニヲイダサズクラフ}棍徒ノ所行ニシテ・ジエントルメンニ非ズ。(十・14)

原語 unpaid [英華] 未還 未交

〔漢語大〕収めず「日国大」「水滸伝」(第四回)
補記「現在中国語で、「白」は「ただで、無料で」の意味を表し、「白給」(ただでやる)「白来」(ただで手に入れる)のように用いられる。「白々」を参照。

バッシ 襪子 左ルビ「(襪に)タビ」／「靴下」の意。 二・12、二・13

・ソノレイスノ目ハ・^{タビ}襪子ノ如ク・糸ヲ交互シテ重タルユエ・薄弱ニシテ・未ダ完全ナラザリシナリ。(二・13)

原語 stocking [英華] 襪 襪子 袜子 襪 襪

〔漢語大〕『兒女英雄伝』(第四回)、茅盾『虹』(三)

ヒギ 悲戲 左ルビ「カナシキツクリバナシ」／「悲劇」の意。 十一・24

・我往テ^{オソ}悲戲ヲ聴シ「ナシ・ソノ吾ガ心ヲ費シ尽ス」ヲ^{オソ}怖レテナリ。(十一・24)

原語 tragedy [英華] 悲戲 悲切之戲

〔漢語大〕収めず

ヒシユ 啤酒 右ルビ「(啤に) ビーア」/「ビール」の意。九・28、十・14

・三麥酒及啤酒ヲ白喫シ・及ビ錢ヲ償ズシテ馬ニ騎ルガ如キハ・棍徒ノ所行ニシテ・ジェントルメンニ非ズ。(十・14)

原語 beer [英華] 啤酒 大麦酒 麦酒

〔漢語大〕「德文bierの音訳兼意識。…」とあるが、文例はない。

補記―『近現代漢語新詞源詞典』に、清馬礼遜『外国史略』の用例を載せる。『西国立志編』には、「麦酒」(右ルビ「ビーア」)もある(十・22)。

ヒョウヨウ 表様 左ルビ「テホン」/「テホンナリフリ」/「手本、見本」

の意。一・23、七・6、九・26、九・32②、十一・18、十一・27、十一・43、十二・1②、十二・10、十二・13

・ソノ軍隊・品行ノ正シキ・訓練ノ備レル・規矩ノ整ヘル。実ニ他軍ノ表様トナリ。(中略) 弥索爾ノゴープルノルニ任ゼラル。(九・26)

・誠ニカクノ如キ人ハ・英國ノ商賈ノ為メニ・端正信実ノ表様ヲ立ツルモノト云フベシ。(九・32)

・故ニ兒童ハ己ノ傍ニ圍繞シ共ニ居ルトコロノ人ノ表様ニ・自ラ似ル。恰モ虫ノ色・ソノ食フトコロノ葉ノ色ニ似ルガ如シ。(十二・1)

原語 model (九・26) model and example (九・32) example (十二・1)

〔英華〕model 模 模様 坏 坏模 楷 倣 規矩 規模 模子 模範 法子 様子 格式 格法 款式 example 様 様子 表様 表率 表法 法

則 模範 様式 儀型 模様 規模 型法 模子 格式

〔漢語大〕収めず [中日大]「手本、見本、雛形、模範。」

補記―『西国立志編』において、「儀型」「式様」「典型」「模範」「様式」の語にも「テホン」の左ルビが付されている。

フウシヨウ 風箱 左ルビ「フイゴ」 四・21

・別ニ書室ナケレバ庖厨ヲ以テ書室ト為シ・別ニ文案ナシ・婦ノ風箱ヲ以テ文案トナス。(四・21)

原語 bellows [英華] 風箱 風櫃 火櫃

〔漢語大〕明宋応星『天工開物』(五金)、魏巍『東方』(第一部)

フウマ 風磨 「風力で回す臼」の意。 十一・5

・好ンデ鋸鏈及ビ斧ヲ用ヒテ風磨・車等・諸器具ノ法子ヲ造レリ。(十一・5)

原語 windmills [英華] windmill 収めず。 mill 磨

〔漢語大〕「利用風力轉動的磨。」清王士禎『池北偶談』(談異四)

フツギヤク 拂逆・払逆 左ルビ「モトリサカラフ」「キニイラズ」/「背く、逆らう」意。 八・13、九・26

・ベニンシユラルノ役・空林登困苦拂逆ノ事ヲ受ケタル。大方ナラズ。(八・13)

・又葡萄牙ノ人ハ・怯弱浮華ニシテ・自ラ私クシスルヲ務ムルニ由リ・困苦

払逆ノ事起ルヲ少ナカラズ。(九・26)

原語 obstacle (八・13) opposition (九・26) [英華] obstacle 碍 礙 防碍 妨碍 阻滞 干碍 阻碍 窒碍 屏擋 opposition 対面 相對

噬逆 敵 相距 相望 相反 相背 抗拒 杭違 相逆 忤逆

〔漢語大〕茅盾『子夜』(十)、艾青『我的父親』

補記―『日本国語大辞典』は、『言志録』の文例を載せる。

ブンシ 分子 「成分、構成要素」の意。三・3、十二・6②

・ソノ白紛ノ中ニ・ケイヲリント云ル分子ヲ含メリ。(三・3)

・今夫レ一人ノ身体・糸毫ノ分子ト雖ドモ・或ハ善或ハ惡ヲ以テ・ソノ中ニ沁

入セリ。(十二・6)

原語 principal ingredient (三・c) atom (十一・6) [英華] ingredient
味 一件 一物 一野 atom 極微之物 小莫能破之物 纖析無可分

〔漢語大〕「成分。」孫中山『建国方略』(物質建設)、沙河『丁跛公』

補記―『漢語大詞典』は、「支庶之子孫」の意味で『穀梁伝』(莊公三十年)の用例を載せる。『英和对訳袖珍辞書』の corpuscle の訳語に「分子」がある。

フンフ 吟附 左ルビ「イヒツケル」／「言いつける、伝言などを申し送る」意。九・17

・モシ事ノ成就セン「ヲ望マバ・自ラ往テコレヲ為スベシ・モシ事ノ成就セン」ヲ望マザレバ・他人ニ吟附スベシト云ヘリ。(九・17)

原語 send to [英華] 使去 寄去 寄興

〔漢語大〕『醒世恒言』(張淑兒巧智脱楊生)、杜鵬程『在和平的日子裏』(第三章)〔中国語大〕『古今小説』(四十)

ホウシ 法子 左ルビ「ヒナガタ」／「モデル、模型」の意。二・10②、

二・13、五・12、十一・5

・阿克来(中略)専ラ心力ヲ機器ニ用ヒ・ソノ作レル法子ヲ普列斯敦ノ学校ニ置ケルガ……(二・10)

・瓦徳ハ・剖屍家ノ用フル水筒ヲ以テ・蒸氣機器ノ法子ヲ始メテ造レリト伝フ。

(五・12)

原語 model [英華] 模 模様 坏 坏模 楷 倣 規矩 規模 模子 模範 法子 様子 格式 格法 款式

〔漢語大〕「弁法、方式。」(発音は *bian*) 清李漁『巧团圆』(闌氣)、『兒女英雄伝』(第十二回)、曹禺『日出』(第二幕)

補記―『漢語大詞典』は「仏教語。仏的弟子」(発音は *fazi*) の意味で、『観無量寿經』の一節を挙げる。『西国立志編』において「様子」(二・10)の語にも「ヒナガタ」の左ルビを付す。

ホウソウ 跑走 右ルビ「(跑到) ハウ」、左ルビ「(跑到) カケ」／「走る、かける」の意。十一・3

・少年ノ人ヲシテ・或ハ操舟ヲ習ヒ・或ハ闘毬ヲ倣シ・或ハ跑走シ・ソノ他力ヲ競ル遊戲ヲ為サシムル「ハ……(十一・3)

原語 走 跑 奔走 奔趨 趣行 趨趕

〔漢語大〕『平妖伝』(第六回)、洪靈菲『在洪流中』

ホウベンシヤ 包弁者 左ルビ「ヒキウケニン」／「請負人」の意。八・

25、九・28、十三・25

・コノ職ニ在リシ間、決シテ包弁者ヨリ贈物ヲ受ケズ。(八・25)

・高尚ナル包弁者ハ・ソノ承当シタル事件ヲ・正經ニ成シ完スルヲ以テ務トセリ。(九・28)

原語 contractor [英華] 立約者 承接弁者 包弁者 承接起造者

〔漢語大〕『水滸伝』(第五五回)、魯迅『且介亭雜文末編』

補記―「包弁ノ人」もある(十三・25)。左ルビ「シオクリヨウタシ」

原語 contractor

メンポウ 麵包・麵包 右ルビ・左ルビ「パン」一・14、一・17②、一・

25、六・3、六・14②、九・24②、九・25②

・哥白爾尼加士ハ・波蘭ノ麵包ヲ焼ク者ノ子ナリ。(一・14)

・三軍ノ用フル麵包ビスケット一種ノ火酒ノ数ヲ逐一ニ記載シテ・営業ニ送ラシメシ「アリ。(九・24)

原語 baker (1・14) bread (九・24) [英華] baker 饅頭師傅 造麵包者
 炕造麵包者 炕麵頭者 bread 麵包 麵頭
 [漢語大] 茅盾『青年苦悶的分析』

モッカ 木花 左ルビ「カンナクツ」三・1

・木花ヲ籃ニ入レ深更ニハ、足ヲ其中ニ入レテ、凍寒ヲ防ゲルトナリ。(三・1)
 カンナクツ ヨツケ

原語 shaving [英華] 木花 刨柴

[漢語大] 収めず [中国語大] かんなくず。(『呉語』と記す。)

ヨウラン 揺籃 右ルビ「クレードル」／「ゆりかご」の意。六・5

・ウエスト
 物斯的僅ニ七歳ノ時ソノ妹ノ小兒揺籃ノ中ニ睡レル顔容ノ愛スベキヲ見テ、

(中略) コレヲ画キタリ。(六・5)

原語 cradle [英華] 撤床 揺床 揺籃

[漢語大] 明李詡『戒庵老人漫筆』(揺籃)、曹禺『原野』(第一幕)

ロウパン 楼版 「(上階と下階の間の) 床板」の意。四・17

・引用考証ノ書ハ、楼版上ニ順序ヲ乱サズ、秩然トシテ圍繞シ、ソノ愛狗ハ、

排列セル書籍ノ外ニ守候セリ。(四・17)

原語 floor [英華] 楼板 地板 地台板

[漢語大]「楼版」は収めず、「楼板」とする。明郎瑛『七修類稿』(詩文・切對)、張天翼『春風』 [大漢和] [中日大] [中国語大] も「楼板」

四 おわりにー覚え書き

『西国立志編』には多様な漢語が用いられている。本稿は、主として出自と成立時にかかわる基礎資料として、中国明代以降に成立したと目される漢語八十語を抽出したものである。それらはおおむね現代日本語に接続しない。

以下、前節の「採録語・文例・出現する文献など」に列挙したことを中心に、作業を進めながら気づいたことを記しておきたい。抽出した漢語をめぐり、次の三点にしばって簡条的に整理する。

- 1 近世中国語の取り入れの状況
- 2 『英華字典』の訳語とのかかわり
- 3 漢語に付されたルビの性格・役割

1 近世中国語の取り入れの状況

・八十語の品詞は、次のようであり、ほとんどが名詞と動詞で占められる。
 (『その他』は形容詞と副詞である。)

名詞 六十三語

動詞 十五語

その他 二語

・八十語の使用回数の内訳は、次のようである。

一回 四十二語 二回 十三語

三回 八語 四回 八語

五回 三語 六回以上 六語

一回だけ用いられている語がほぼ半数を占める。「六回以上」の語の中には、状師(二十回)、表様(十二回)、麵包(十一回)といった語が含まれ、全体で延べ二〇五回用いられている。

・『漢語大詞典』を中心に『大漢和辞典』『中日大辞典』などに記す出典によ

れば、各語の現れる、時代的に最も早い文献は、次のようである。

明代の文献 二十五語

清代の文献 十九語

それ以後の文献 十二語

採録せず 二十四語

・「明代の文献」では『水滸伝』『醒世恒言』、『清代の文献』では『紅樓夢』

『兒女英雄伝』『儒林外史』『福恵全書』などが、出典例として比較的多く挙げられる。なお、中村正直は、自伝の中で、若き日「惑溺小説、水滸為癖」

(小説に惑溺し、水滸癖と為る)と述べている(「中村敬字先生自叙千字文」)。

・「採録せず」の二十四語のうち、十三語は、ロブシャイド編『英華字典』の訳語の中に存在する。(Self-Helpの原語について照合した結果である。)

・前節では省いたが、次のような、動詞の後に、「住」「着」「過」などの接尾字を伴う語が見られる(括弧内は左ルビ)。――塞住(フサギトメル) 抱住(イダキトメル) 拿着(トラヘ) 放過(キ、ナガシニスル) など。

これらについては、別稿で考察する予定である。

・本稿では、明代以降に成立した語に限ったが、参考までに、『漢語大詞典』の出典例に基づき、宋時代・元時代に成立した可能性のある語を二、三列挙する。括弧内に左ルビ(「」を付す)あるいは意味を記す。

宋時代――暗号(合図) 獸子(あほう) 玩戲(「ナグサミ」) 儀型(手

本、見本) 夾袋(ポケット) 脚根(立場、立脚点) 公厅(「ヤクショ」

裁判所) 護視(「カンビョウ」) 事件(事項) 時辰表(「ネツドケイ」) 倡

首(「カシラ」) 照管(「キヲツケル」) 承当(引き受ける) 秤量(は

かり) 剪怪賊(おいはぎ) 遭際(めぐり合わせ、運命) 大段(「オホ

ヨソ」) 托(託) 辞(「イヒツケ」) 日間(昼間) 熱鬧(「コミアフ、ニ

ギヤカ」) 白灰(「チョウク」) 忙乱(うろたえる) 様子(「ヒナガタ」

元時代――演習(稽古) 跟随(つき従う) 棍徒(悪者) 消受(「ウケ

ル、モチヒウク」) 招認(受け取る) 師首(「カシラ、タイショウ」)

正旦(「ランナガタ」) 造化(幸せ、幸福) 打聴(聞きつける) 挑唆

(「イドミヲダテル」) 縛縛(しばる) 驢馬(のろま、馬鹿)

・宋時代では、『朱子語類』などの朱熹の文献、元時代では、関漢卿を中心とする戯曲類に用いられている語が目立つ。

・『西国立志編』における近世中国語の使用は、中村正直の他の訳書、例えば『自由之理』(明治五年)、『西洋品行論』(明治十一年)などに比べ(量的な整理をしていないが)はるかに多い。

2 『英華字典』の訳語とのかかわり

「英華字典」とのかかわりを調べるために、その代表として、ロブシャイド編『英華字典』によった。(他の辞典との照合結果については省略した。)

・まず、抽出した漢語が原典の Self-Help のいかなる語句に対応するか(いかなる語句を訳出したものか)、八十語に対応する原語の数は、次のとおりである。

対応する原語が一語(例、夥伴-companion) 六十五語

対応する原語が二語(例、火酒-brandy と spirit) 十一語

対応する原語が三語以上(「頭人」の項を参照) 一語

対応する語が不明確(見出し得ない、特定できない) 三語

対応する語が不明確なものがある反面、複数の用例に対して異なる原語が対応するものがあり、対応が明確な原語は延べ九十一語を教える。

・それらの原語について、『西国立志編』の訳語がロブシャイド編『英華字典』の訳語の中に存在するか(一致するか)どうか、九十一語の対応数は、次のとおりである。

存在する(一致する)もの 四十三語

存在しない(一致しない)もの 四十八語

「存在しない(一致しない)もの」の中には、原語そのものが『英華字典』に収録されていない二語を含む。結局、『西国立志編』の訳語の半数弱が『英華字典』に存在する(一致する)。(もとより、これらの語がすべて、ロブシャイド編『英華字典』に基づいているとは言えないが、そこを経由して取り入れられた語も多いであろう)。

存在しない語の中にも、『西国立志編』の訳語と『英華字典』の訳語とにあるかがわることがある。例えば、次のようである(括弧内が『英華字典』の訳語)。

字順が逆(字順転倒)—— 圈円(円圈) 債欠(欠債)
一部分の省略・削除 —— 紳衿(郷紳衿) 賑目(賑目単)
二つの訳語の一部合体 —— 快差(快班、跑京差) 夥伴(夥計、伴侶)
承允(応承、允) 湊成(湊合者、合成者)

対象とした漢語と *Self-Help* の原語との対応関係が明確なものについて、堀達之助等編『英和对訳袖珍辞書』(文久二年)、ヘボン編『和英語林集成』(慶応三年)の訳語と照合したところ、『西国立志編』の訳語と一致するものは全く存在せず、八十の漢語に関しては両辞書とのかかわりは薄い。

3 漢語に付されたルビの性格・役割

振り仮名は右ルビと左ルビとがある。ルビが全く付されない語も九語あるが、複数回現れる語に対して異なるルビが付されることがあるので、その延べ数は、右ルビ二十一、左ルビ六十七、合計八十八を数える。

これら八十八のルビは、語種及び句の面で、次のように整理される。

	和語	漢語	外来語	混種語	句	計
右ルビ	一	四	十六	〇	〇	二十一
左ルビ	三十二	十一	一	十	十三	六十七
計	三十三	十五	十七	十	十三	八十八

・「混種語」は、オホヒャクショウ、ザガシラ、ヒキウケニン、マチブギョウなど、すべて和語と漢語とから成るものである。「句」の例は、カナシキツクリバナシ、クチヲハウニツケルコト、ゼニヲトラズニ、タマヲウツアソビなど)。

・当時、漢字・漢語の左右に振り仮名が付される文献の場合、一般に右ルビは読みを、左ルビは意味を示す役割をもつ。対象とした語については、右ルビに「外来語」が多いが、それは「ポケット」「ブランデー」「コンパニー」のように、原語の読みを写したものであり、「外国語」とするのが適切かもしれない。また、右ルビの「和語」に「手套」^{テフクロ}、漢語に「戯子」^{ヤクシヤ}のような意味ルビといえる例外もあるが、おおむね「右ルビ」は読み、左ルビは意味を表している。

・対象とした八十語の多くには極めて丁寧に意味を示す左ルビが付されている。訳者には、訳語として選んだ本文の漢語→近世中国語は一般の人々に意味の理解され難いものとの認識があり、ルビによって読者の理解を助けようとしたのである。本文の漢語に対して漢語のルビを付す(快差、知府、賑目のような、漢語による言い換え)といった現象も見られるが、それらを含め、左ルビの語は、本文の漢語の意味・内容を説明する役割を担うものとして、平易でなじみのある日常語である。

五 今後の課題

先に触れたように、抽出した漢語は、該当語の一部に過ぎず、あるいはまた中に明代をさかのぼる語を含んでいるかもしれない。中間報告的なものであり、今後精査をもとに、語の追加・修正を加えていきたい。

「はじめに」の節で挙げた項目とかかわるが、訳語をめぐる中・日諸文献の語との対照・かかわりの究明が求められる。中村正直は訳出の際訳語を選ぶに

当たって、諸般にわたる文献の語を活用したと想像される。しかし本稿では、その面の資料として、ロブシャイド『英華字典』の訳語に限定し、他の文献の記述はすべて省いた。中村正直は訳語をいかなる文献から、どの程度採り入れたか―特定することは難しい問題であるが、蘭学関係の資料とともに、他の『英華・華英辞典』をはじめ中国の後期洋学書、白話小説類など、日本の唐話辞書、幕末・明治期の対訳辞書・著訳書・雑誌・新聞などの語とのかかわりについて、全体的に、また各語に関して個別的に調査し考察する必要がある。当面の課題の一つである。

資料・参考文献（本稿では〔 〕内を用いた。）

中村正直訳『西国立志編』（明治四年・一八七一）―〔国立国会図書館蔵本〈同人社蔵版〉〕

Samuel Smiles *Self-Help, with Illustrations of Character and Conduct, and Perseverance*. (John Murray 一八六七)

以下、中国と日本に分け、発行順に記す。

中国

Wilhelm Lobscheid (羅存德) 編『英華字典』*English and Chinese Dictionary, with Punti and Mandarin Pronunciation* (一八六六―一八六九年)―〔東洋文庫蔵本〕

陸爾奎・方穀等編『辞源』（商務印書館 一九一五年）

漢語大詞典編輯委員会等編『漢語大詞典』（漢語大詞典出版社 一九八六年）

現代漢語大詞典編委會編『現代漢語大詞典』（漢語大詞典出版社 二〇〇〇年）

近現代漢語新詞源詞典編輯委員会編『近現代漢語新詞源詞典』（漢語大詞典出版社 二〇〇一年）

日本

堀達之助等編『英和对訳袖珍辞書』（文久二年・一八六二）―〔杉本つとむ編

『江戸時代 翻訳日本語辞典』早稲田大学出版部 一九八一年）

James Curtis Hepburn (平文) 編『和英語林集成』（初版）（慶応三年・一八六七）―〔北辰復刻版 一九六六年〕

諸橋轍次著『大漢和辞典』（大修館書店 昭和三十年・一九五五―昭和三十五年・一九六〇）―〔修訂第二版 一九八九―一九九〇、補巻 二〇〇〇年〕

日本国語大辞典編集委員会編『日本国語大辞典』（小学館 昭和四十七年・一九七二―昭和五十一年・一九七六）―〔第二版 二〇〇〇年〕

中村元著『仏教語大辞典』（東京書籍 昭和五十年・一九七五）

愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典 増訂第二版』（大修館書店 昭和六十年・一九八五）

大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』（角川書店 平成六年・一九九四）

小林雅宏『西国立志編』におけるふりがなの使い分け（『専修国文』第三十号 昭和五十七年九月・一九八二年九月）

木村秀次『西洋聞見録』の振り仮名（『全国大学国語国文学会「文学・語学」第一六五号 平成十一年十月・一九九九年十月』）

岡島昭浩・澤崎久和・永井崇弘・李忠啓『西国立志編』の漢語―左傍訓を有する漢字語彙とその索引―（『福井大学地域科学部紀要Ⅰ』人文科学

第五十一号 平成十二年一月・二〇〇〇年一月）

永井崇弘・岡島昭浩・澤崎久和・李忠啓『西国立志編』の漢字語彙―英語片仮名表記を有する漢字語彙とその索引―（『福井大学国語学会「国語国文学」

第四十号 平成十三年三月・二〇〇一年三月）

二〇〇一年（平成十三年）九月二十日稿